

中国 -- 雲南省と広西チワン族自治区におけるメコン地域開発への関与（特集 メコン地域開発の現状と展望）

著者	朱 振明
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	134
ページ	28-31
発行年	2006-11
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://doi.org/10.20561/00047294

特集／メコン地域開発の現状と展望

中国—雲南省と広西チワン族自治区におけるメコン地域開発への関与

朱 振明

一九九二年、アジア開発銀行（ADB）の提唱の下、メコン地域のミャンマー、ラオス、タイ、カンボジア、ベトナムの五カ国と中国の雲南省は大メコン圏（GMS）開発プログラムを開始した。GMS経済協力プログラムでは、その後一〇〇以上のプロジェクトが実施され、それらは著しい成果を上げ、代表的なインフラ開発プロジェクトの達成を通じて、各国の経済と社会の発展を促進した。GMS経済協力は多大な成果を上げただけでなく、一つの系統的な成功手法と経験を生み出した。GMS経済協力は、東南アジア地域における数多くの地域協力機構のなかでも、参加国が多く、協力分野も幅広く、最も成功した例の一つと言えるだろう。

●中国のGMS参加主体としての雲南

雲南省は中国の西部大開発戦略実施における重要な省であるばかりでなく、中国政府がGMS経済協力に参加する権利を与えた主体であり、多くの分野の地域協力に参加している。

雲南省は中国西南の国境地区に位置し、面積は三九・四万平方キロ、人口は約四三〇〇万人（二〇〇三年）である。雲南省西部と西南部はそれぞれGMSのベトナム、ラオス、ミャンマーの三方国と隣接し、陸地の国境線は四〇六〇キロに達する。東部は広西チワン族自治区と貴州省、北部は四川省と重慶市、西北はチベット自治区と隣接している。雲南は東南アジアに面し、中国大陸の内地を背にして、東南アジアとアジアの内陸とを結ぶ要衝であり、その戦略的地位は重要である。

雲南省のGMS経済協力への参加は、その地理的位置によって決定された。メコン川は中国の国境内では瀾滄江と呼ばれている。その源は中国の青海省であり、チベット自治区の昌都地区と雲南省の西北・西南地区を通じてミャンマー、ラオス、タイ、カンボジア、ベトナムへと流れ込み、ベトナムの南部から太平洋に注いでいる。瀾滄江—メコン川の全長は四九〇九キロであり、中国国境内の長さは二一六二キロで、そのうち雲南省内が一四七キロである。流域面積は八・八七万平方キロで、雲南省の総

面積の二三%を占める。雲南省はメコン川の上流に位置するため、同省がGMS経済協力に参加するのは自然な道理である。こうしたことから、ADBは一九九二年にGMS経済協力を発起する際に、雲南省を中国のGMS経済協力における主体と定めたのであった。

雲南省のGMS経済協力への参加は、雲南省自身の事情によって決まったことでもあった。一九七〇年代末、中国は画期的な改革開放の過程を開始した。しかし、一九七〇年代末から一九八〇年代末の一〇年間、中国とベトナムの関係悪化により、ベトナムと隣接する雲南省はベトナムと対峙する状態となり、この状況は雲南省の対外開放の歩みを中国内地よりも大きく遅らせることとなった。雲南省内の一二七県のうち、実に七二県が貧困県に属する。経済と文化の立ち遅れは雲南省の発展を阻害していた。一九九一年に中国とベトナムの関係正常化が実現し、これが雲南省と隣国との開発の展開に良好な条件を作り出した。雲南省はこの有利な機会を利用し、雲南の対外開放、とりわけ隣接する東南アジア諸国に対



特集／メコン地域開発の現状と展望

する開放を促進しなくてはならないと認識していた。開放の拡大を通じて、雲南省の対外開放における立ち遅れた状況は改善され、雲南の経済と社会の全面的発展が促進された。一九九二年、雲南省政府は「打開南門、走向亚太」（南の門を開き、アジア・太平洋へ向かう）というスローガンを提起し、周辺の東南アジア諸国との経済・貿易協力を強化する対外開放戦略を決定した。同年、ADBがGMS経済協力を発起した後、雲南省はこれを契機として協力に参加し、また一九九二年にフィリピンで開催された第一回GMS経済協力会議において率先して雲南省とメコン地域諸国との協力の具体的なプロジェクトを提出した。雲南省の先進的な構想と具体的な計画は域内のその他の国々の十分な評価を受け、その後その他の国々による経済協力提案のモデルを提供する役割を果たした。

●雲南省のGMS参加の成果

GMS経済協力は交通、エネルギー、通信、貿易、投資、観光、環境、人的資源、麻薬禁止などの分野におよぶ。雲南省はこれらすべての分野における協力に参加した。GMS経済協力における多くの優先プロジェクトは雲南省と関係のあるものである。基礎的な施設建設について言えば、ADBが決定した交通インフラ開発の優先プロジェクト中、雲南に関係するものは以下の九プロジェクトに上る。昆明―ラショー（ミ

ヤンマー）高等級道路（高速道路より等級の低い幹線道路）と昆明―バンコク高等級道路の建設、雲南―ミヤンマー鉄道と雲南―タイ鉄道の建設、昆明―ハノイ鉄道の改善、瀾滄江―メコン河の浚渫と通航、元江―紅河の浚渫と通航、昆明国際空港とシーサンパンナ国際空港の改造、景洪発電所の建設（完成後、タイに送電）。一九九八年、ADBはさらに南北経済回廊、東西経済回廊、南部経済回廊の建設を決定した。そのうち南北経済回廊の起点はまさに雲南省である。これらの基礎的な施設建設プロジェクトは、メコン地域協力の全体的な推進と協力目標の実現に関係するため、ADBは雲南省のGMS経済協力における役割を十分重視しているのである。

雲南省は真剣に各プロジェクトを実行した。昆明―ミヤンマー道路建設のプロジェクトにおいては、二〇〇五年末までに雲南省の区間のほとんどの部分で高速道路あるいは高等級道路が完成した。昆明―バンコク道路建設においては、雲南省の区間はすでに基本的に自動車専用化を実現した。また雲南省は昆明―バンコク道路建設におけるラオス区間八〇キロあまりの建設を援助し、すでに二〇〇六年四月に竣工している。貿易と投資の領域においては、二〇〇四年、雲南省とメコン地域五カ国との輸出入貿易総額はすでに一〇億五四〇〇万米ドル（以下、ドルと略記）に達し、前年比で二八・一％増加している。対外経済技術協力

の領域でも新たな進展があり、二〇〇四年末までに、雲南省のメコン地域五カ国における工業、農業、製造業、紡織業、鉱業開発、交通運輸業などの領域での投資プロジェクトは八七に達し、対外投資金額の累計は一・一億ドルであった。

農業開発協力の領域では、雲南省は、ベトナムへ小麦とビール用大麦の栽培モデル・テスト、ミヤンマーへヤンゴン野菜草花育成センターの建設、ラオスへチャンパーサク県農業標準化模範園建設等の農業協力プロジェクトを実施した。ベトナムへは「毒素の芽が出にくい品種のジャガイモ」とその生産技術を輸出し、種芋の輸出は毎年数百トン、栽培面積は数万ムー（中国の面積単位で原語は「畝」。一ムー＝約六・六六七アール＝記者注）に達し、平均して二〇％増産した。ベトナムの農業農村開発省はこれを国家級の農業技術推進プロジェクトに組み入れている。

人的資源開発協力においては、雲南省は「中国ASEAN協力基金」を利用して「ブロンペン養成訓練計画」に参加した。二〇〇四年に雲南省が育成したメコン地域諸国の中・高級政府人員と科学技術人員は延べ三〇〇人あまりに達する。雲南省はまた、一二回に分けて延べ六五人をタイに派遣してメコン研修所の短期養成に参加した。さらに、メコン地域諸国との合意にもとづき、昆明で養成訓練クラスを開き、ミヤンマーの麻薬取引取締り人員とメコン地域諸

国の税関職員を養成した。二〇〇四年から、雲南省政府は毎年一八〇万元を支出して奨学金とし、雲南省の教育機関に来て学習・研究するメコン地域諸国の学生、教師、研究員へ提供している。

麻薬禁止の領域では、雲南省は一九九〇年以来、ミャンマーとラオスに約三億元を投入して麻薬との代替作物栽培を展開し、水稻、ゴム、サツマイモ、茶葉、コーヒー、スイカ、コンニャクイモなどの食糧と経済作物を一五〇〇平方キロ植え、明確な効果をあげ、麻薬栽培の蔓延を押さえ、当地の経済・社会の進歩を促進し、国連薬物犯罪事務所（UNODC）の高い評価を受けた。雲南省の代表は一九九二年以来、中国政府代表団のメンバーとしてこれまで毎回閣僚会議に参加している。一九九六年と二〇〇三年には、雲南省が閣僚会議を主催した。特に二〇〇五年の第二回GMS首脳会議は雲南省において開催された。雲南省のGMS経済協力における地位と役割の大きさは突出してきていると言える。

●広西チワン族自治区経済の迅速な発展

広西チワン族自治区（以下、「広西」と略記）は中国の沿海地区の西南部に位置する。南は北部湾（日本ではトンキン湾と呼ばれることが多い―訳者注）、東は広東省、東北は湖南省、西北は貴州省、西は雲南省、西南はベトナムと接し、国境に面する省・

区のうちの一つである。広西の面積は二・三・六七万平方キロで、全国土地総面積の二・四六%を占め、区全体の人口は四八八九万人である（二〇〇四年末）。広西はチワン族を主体とする少数民族自治区で、全国で少数民族の人口が最も多い省・区でもある。

中国が改革開放政策を施行して以来、かつて貧しく未発達であった広西には巨大な変化が生じた。二一世紀に入ってから、広西は経済の急速かつ健全な発展という良好な形勢を一貫して保っており、経済成長はさらに加速し、総合的な経済力はさらに増強され、各社会事業は発展し、都市・農村居住者の生活レベルはより一層高まった。統計によれば、二〇〇一年から二〇〇四年までの広西の域内総生産額（GDP）の年平均成長率は一〇・二%に達し、これは中国全体の成長率より一・六ポイント高い。二〇〇五年の広西のGDPはすでに四〇〇〇億元を突破し、四〇六三・三〇億元に達している。不変価格にもとづいて計算すると、前年より一二・七%増加しており、増加幅は一九九五年以来最高レベルである。人民元とドルの為替レートにもとづいて計算すると、二〇〇五年の広西の一人当たりGDPは一〇五八ドルに達し、一人当たりの財政収入は一〇〇〇元を超える。これは広西の発展の歴史における輝かしい記録である。

対外貿易においては、二〇〇五年の広西

の輸出総額と輸入総額はともに過去最高を記録した。統計によると、年度輸出入総額は五一・八三億ドルで、二〇・九%増加している。そのうち輸出総額は二八・七七億ドルで二〇・一%増加、輸入総額は二三・〇五億ドルで二一・八%増加した。輸出先では、アジアへの輸出が一七・三三億ドルに達し、一七・二%増加している。そのうちASEAN加盟国への輸出は八・三二億ドルで、三〇・五%増加しており、なかでもベトナムへの輸出は六・四四億ドルで、四一・七%増加している。ASEANはすでに七年連続で広西の最大の貿易相手であり、なかでもベトナムは一貫して広西にとって最大の貿易相手国である。

●広西チワン族自治区のGMS参加

広西はメコン川流域の範囲に属しているわけではないが、中国西南部の海へと注ぐ湾に位置し、メコン地域の域内の国家であるベトナムと隣接し、また中国・ASEAN博覧会の永久開催地であるため、二〇〇五年に開催された第二回GMS首脳会議において、中国政府は広西を雲南省に次ぐ中国第二のGMS参加省・区とした。

広西チワン族自治区は東南アジアへの開放において多くの優位性を持っている。第一に、広西は北部湾に面し、その海域面積は一二・九三平方キロであり、海岸線は一五九五キロに達する。中国西部地区で唯一



特集／メコン地域開発の現状と展望

海へと繋がる道を有し、西南地区で唯一海からも陸からも東南アジア諸国と往来できる省・区でもある。広西の防城港は中國大陸西南地区の出口となる水深のある良港であり、西南地区の経済発展に対して重要な役割を果たす。第二に、広西は中国政府により中国・ASEAN博覧会の永久開催地として決められている。この博覧会は多くの国の政府が参加し長期的に中国において開催されるものであり、すでに中国とASEAN諸国の貿易と投資における橋渡しをする活気ある重要なプラットフォームとなっている。第三に、広西は沿海地区に属するばかりでなく国境地区にも属しており、これによって広西は沿海開放と国境地区としての優遇政策を受けている。第四に、広西にはその他の省・直轄市にはない民族区域自治政策がある。広西は中国の五大民族自治区の一つであり、西部大開発で中国政府から優遇政策と重点的な支援を受けている。第五に、近年、広西は中央政府の支援の下で基礎施設の建設を推進しており、すでに南寧から中国とベトナムの国境である友誼関に通じる高速道路を建設した。現在は沿海高等級道路を建設しており、中国の広東省、海南省、広西、香港、マカオとベトナムのクアンニン、ハイフォンなどの沿海地区を結びつけ、環北部湾経済圏の主要な通路となっている。広西とベトナムは関係方面においてすでに合意に達しており、中国―ベトナム国境の川である北侖河に両国を

またぐ二番目の大橋を共同で建設し、南寧―ハノイ、南寧―ハノイ―ハイフォンという二本の旅客・貨物運輸路線をできるだけ早く開通させようとしている。

広西のGMS加盟とともに、広西とメコン川流域諸国、およびその他の東南アジア諸国との交流はより一層増加している。

●雲南と広西の共同発展

広西のGMS加盟が雲南省への挑戦かという、答えは否である。まず、雲南にしても広西にしても、GMSへの参加は中央政府の統一部署の下で行われた。雲南省がGMSにおいて提出したプロジェクトもまた中央政府の同意を得たものである。次に、GMSはプロジェクトを紐帯とする協力であつて、開発はプロジェクトとして行うべきものであり、GMSの目標に符合しさえすれば、すべて建設プロジェクトとして提出して実行することができ、どちらが勝つてどちらが負けるといった競争は存在しない。第三に、広西がGMSに加盟したといっても、その重点は雲南省とは異なる。雲南省はメコン地域に属し、またメコン川流域諸国と隣接し、その協力の重点はインドシナ半島の内陸に置かれている。広西は雲南省や西南地区のその他の地区にはない沿海の優位があり、広西がより考慮しているのは沿海の優位を發揮することである。最近、広西チワン族自治区の政府指導者は「環北部湾経済圏」を構築する戦略構想を

提起した。これはまさに広西の沿海の優位性を十分に利用して東南アジアに対する開放を拡大しようとするもので、大メコン圏開発への加盟に止まるものではない。この構想によれば、「環北部湾経済圏」は中国沿海の広東・広西・海南の三つの省・区とベトナムの一部の省を含んでおり、南シナ海のシンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ブルネイなどの国をも含んでいる。この構想は、沿海に立脚して中国大陸とインドシナ半島との橋渡しをし、東南アジアの島嶼諸国を繋ぎ、さらに大きな範囲の協力を実現するものである。二〇〇六年七月二〇日から二二日にかけて、広西チワン族自治区政府と中国国務院西部開発指導弁公室は「環北部湾経済合作セミナー」を協力して主催し、広西政府の指導者はこの構想に対してさらに詳細な説明を行った。もしこの構想が実行に移されたら、広西はまったく新しい対外開放の局面を形成することになる。目標が異なれば重点も異なるため、広西がGMSに加盟したことで、広西と雲南が競合相手となることはありえない。むしろ、両省・区は各自の優位性を十分に利用して、異なる角度から開放を拡大し、各自で決めた目標を実現し、共同で各省・区の経済・社会の発展を促進し、それぞれの人民に幸福をもたらすのである。

(Zhu Zhenning / 雲南省社会科学院東
南アジア研究所教授・前海外客員研究
員／原文中国語、訳⊥加島潤)